

春 秋 会



幹事長 木 戸 良 彦

春秋会の歩み

春秋会は、東京工業大学(旧制東京工業高等学校)の出身者が中心となって、大正12年(1923年)に創設され、以来87年の歴史がございます。ちなみに、筆者の曾祖父も創設メンバーの一人であります。

会名の由来は、「春には弁理士会役員選挙のために集まり、秋には弁理士試験合格祝賀のために集まる」ことにちなんで、名づけられました。

春秋会は創設以来、日本弁理士会の運営を支えるべく、会長、副会長他多数の役員を輩出し、各種委員会の委員を推薦してきております。本年度も、日本弁理士会役員としては、副会長1名、監事2名、常議員10名、執行理事1名が、また、44の附属機関・委員に対し12人の委員長をはじめ、延べ180人強の副委員長・委員が活躍しております。特に、研修所、国際活動センター、特許委員会等といった弁理士会の運営において重要な部門での機関長・委員長に、春秋会会員を輩出しております。

また、昭和48年(1973年)には、東海春秋会(愛知、岐阜、静岡、三重、長野)が結成され、独自に幹事会も形成し、弁理士会東海支部の運営を支えております。

春秋会は、技術出身者のための弁理士会役員の選挙母体として創設されましたが、現在では、東京工業大学以外の出身者も多く、技術系・法律系といった垣根もなく、色々な分野の方が活躍されております。

平成22年度現在、東海春秋会の会員も含めて、約800名の会員を擁しております。

春秋会の組織

(1) 総会

総会は、年に2回定期総会が開催され、必要に応

じて臨時総会を招集します。総会は、春秋会における最高意思決定機関であり、前年度決算・本年度予算、重要人事といった重要事項を決議いたします。

(2) 幹事会

幹事会は、会務執行機関として、会員相互の研鑽及び親睦を図るための各種行事の企画・運営をしております。幹事会の任期は、2月1日から翌年の1月末までとなり、月1回の定例幹事会を開催しております。

幹事長1名、副幹事長4名、幹事15名、顧問1名の21名で構成され、他会派に比べて若手メンバーが中心となっています。半数の11名が初幹事経験者(そのうち2名は、4月に弁理士登録したばかり)です。これまで春秋会のイベントにほとんど参加した経験もないメンバーもいますが、経験豊富な副幹事長がサポートすることで、将来の春秋会を支える人材を育成しております。

(3) 相談役会

相談役会は、歴代幹事長、日本弁理士会会長・副会長、日本弁理士会各支部長の経験者で構成されており、幹事長が必要に応じて開催し、重要な人事・政策等について意見・助言を頂戴します。なお、相談役会では、原則として幹事会の意思を尊重してもらえ、束縛するようなことはありません。したがって、幹事会の責務は大きくなりますが、それは諸先生方からの期待の証であると思っており、幹事会一同真剣に会務運営に取り組んでおります。

(4) 委員会

春秋会には常設委員会を6つ設置しており、また必要に応じて特設委員会を設置しております。詳細は次項で述べます。

春秋会の委員会

(1) 人事委員会

人事委員会は、常設委員会の一つであり、日本弁理士会役員、日本弁理士会委員会、春秋会幹事長といった重要人事について検討し、推薦・意見・承認等の答申を行います。

昨今の弁理士会からの委員会への委員動員要請への対応は厳しく、一部の会員へ負担が集中している状況がここ数年ずっと続いておりますが、岩永和久委員長を中心に、公平性と長期的視野の観点から対応していただいております。

(2) 協議委員会

協議委員会は、常設委員会の一つであり、日本弁理士会の役員の候補者選出について他会派と協議すると共に、選挙対策を練ります。

本年度は、春秋会から日本弁理士会会長を擁立する予定であり、役員選挙での必勝体制のために伊藤高英委員長を中心にご尽力いただいております。

本年度は複数の会長候補予定者の名前が挙がっておりますが、選挙時には協議委員会が選挙対策委員会となり、選挙運動を指揮していきます。

(3) 政策委員会

政策委員会は、常設委員会の一つであり、日本弁理士会等からの諮問を受けて、重要政策案件について検討し、答申・提言を行います。

政策通の長濱範明先生に政策委員長をお願いし、タイムリーな対応をとってもらっています。

(4) 広報委員会

会員への日常的な情報発信は春秋会メール通信を中心に行っておりますが、年2回の会報発行と春秋会ホームページによる情報も発信しております。会報の企画・編集と、ホームページの運営・管理を担当するのが広報委員会であり、常設委員会の一つであります。

本年度は、大沼加寿子委員長を中心にセンス抜群のメンバーで構成されています。

(5) 研修委員会

春秋会は日本弁理士会の継続研修の外部機関として認定されており、常設委員会の一つである研修委員会で研修を企画・実行しております。また、研修の多くは、東京と名古屋をTV会議システムで繋ぎ、東海春秋会の先生方にも多く参加できる環境を整えております。

なお、認定外部機関は、毎年1月末までに4月からの次年度計画を提出する必要があり、2月から翌1月を年度としている春秋会のサイクルとずれております。そこで、本年度も昨年度に引き続き米屋崇先生が研修委員長として研修委員会を率い、これからの春秋会における研修のあり方・基盤づくりをお願いしております。

(6) 規約委員会

規約委員会は常設委員会の一つであります。87年の歴史のある春秋会ですが、会則が施行されてからは実は2年しか経過しておりません。日本弁理士会の例規委員長も勤める五十嵐貞喜先生に規約委員長になっていただいておりますので、必要な改正が生じた場合には、すぐに対応できるように万全の体制で備えています。

(7) 特別政策委員会

本年度は、弁理士会会長選挙を見据えた政策を検討するために、幹事会の要請により特設委員会として設置し、西出眞吾先生に委員長を勤めてもらっております。

春秋会の同好会

春秋会には、会員の親睦を図るために、野球部、ボウリング部、テニス部、ゴルフ部、スキー部、ダイバーズ（スキューバダイビング）、マウンテンバイク同好会、オートバイ同好会、句会、麻雀部、ヴィノファイル（ワイン同好会）、ダーツ同好会、トラちゃんの会（阪神タイガース同好会）といった13もの同好会があります。

野球部はパテント杯において過去優勝3回の輝かしい戦歴もありますし（本年度は残念ながら2回戦

敗退)、テニス部、ボウリング部は日弁の大会においても常に優勝争いをしております。スキー部やダイバーズの年数回の合宿には他会派の先生方にも多く参加いただいているようです。

また、ワインに詳しい奥山尚一先生、久門保子先生がメンバーにいるヴィノファイルでは、年に数回ワインのテイスティングの会を開催しています。詳しい知識を教えてもらいながら、リーズナブルで美味しいワインも紹介してもらえますし、高級ワインも堪能できるとあって、初心者でも十分に楽しめる内容であります。

春秋会の行事

(1) 日本弁理士会役員退任慰労・新任激励会

日本弁理士会の平成21年度役員慰労と平成22年度役員激励のため、4月5日に明治記念館で開催いたしました。

(2) 新規登録者祝賀会

弁理士の登録前義務研修である実務修習制度が導入されて2年間ほど経過しました。現在の制度では、11月に弁理士試験合格しても、翌年3月末に研修が修了するまで弁理士登録をすることができません。

そのために、11月に会派で合格者祝賀会を実施しても、登録までに3、4ヶ月経過してしまう中で、会派の存在を忘れてしまう、若しくは入会するきっかけをなくしてしまうということになり、いわゆる「会派離れ」を増長させてしまうおそれがあります。

そこで、改めて弁理士の登録をお祝いするために、新規登録者祝賀会を5月21日に八芳園で実施いたしました。

「春秋会」の由来は、冒頭述べましたように、弁理士会役員選挙のために春に、弁理士試験合格者祝賀歓迎のために秋に集まるからという理由であったわけですが、現在、弁理士会役員選挙は秋に行われています。しばらく「秋秋会」であったのが、弁理

士登録者祝賀会を春に実施することで、「春秋会」の原点に立ち返ることができました。

(3) 旅行会

春秋会では毎年5～7月に親睦旅行会を開催しています。

本年度は、7月17-18日に京都の嵐山温泉に行きました。2日目は嵐山の名所をめぐる観光プランを用意しました。また、京都ということで自由行動で色々と観光される方も多く、参加者の銘銘がそれぞれの京都旅行を満喫されていました。

(4) 納涼会

8月19日の暁に、納涼会を明治記念館で開催しました。当日は、神宮花火大会の開催日であり、会場から打上げ花火がばっちり鑑賞することができます。当日は春秋会会員だけでなく、家族や事務所所員等も参加できる企画とし、浴衣を着て参加される方もいて、皆様、夏の夜を堪能していました。

(5) 口述試験練習会

例年、弁理士試験口述会場と同じ会場で練習会を開催しています。今年も本番と同じ、ザ・プリンスパークタワー東京にて、9月30日、10月1日の2日間開催する予定です。

(6) 日本弁理士会役員当選祝賀会

開票日当日の11月5日に開催予定です(会場未定。)

(7) 就職懇談会・弁理士試験合格者祝賀会

春秋会としては、登録者祝賀会を新設しましたので、合格者祝賀会の派手な開催はせず、セミナー等と組合せたカジュアルな会を企画しています。

(8) 叙勲褒章祝賀会兼新年会

例年1月末ごろに、目黒雅叙園にて開催しています。

稲門弁理士クラブ



代表 中野寛也

(1) 入会資格

当クラブの入会資格は、早稲田大学および早稲田大学大学院の卒業生となっています。今や、弁理士8会派の中では、唯一、純血主義を保っている団体です。では、早稲田大学高等学院や早稲田実業の卒業生、タモリや広末涼子のような中退者、サエコや旭鷲山のような通信の受講者が弁理士になったら入会できるのか？という疑問が生じます。私もよく判りませんが、都の西北を歌える人か、歌いたい人なら、入会できるのだろうと勝手に解釈しています。

(2) 会員数

2010年8月20日現在で、名誉会員も含めると、199人です。入会資格が限定的であるが故に、弁理士8会派の中では、最も少人数の団体です。

(3) クラブの性格

当クラブは、早稲田大学交友会に正式に登録された団体です。早稲田大学交友HPによれば、現在、登録稲門会数は1,325団体となっており、地域稲門会、海外稲門会、職域稲門会、年次稲門会、ゼミ稲門会、体育各部稲門会、サークル稲門会、有志稲門会があります。このうち、職業や業界別で活動する職域稲門会を同HPで検索すると、「稲門弁理士クラブ」と「特許庁稲門会」がヒットします。つまり、当クラブは、職域稲門会として登録されている特許業界2団体のうちの1つということになります。

(4) よくある混乱・混同、不思議な解釈

実は、上記の2団体とは別に、「稲門特許会」という団体も存在します。「稲門特許会」も、早稲田大学出身弁理士の団体であり、その名簿には、日弁およ

び日弁以外の多くの先生が名を連ねています。では、「稲門特許会」は、「稲門弁理士クラブ」の上位団体なのかというと、それは少々違っており、「稲門特許会」の名簿には、「稲門弁理士クラブ」の会員は含まれていませんし、その逆もしかりです。つまり、名簿上は、「稲門弁理士クラブ」と「稲門特許会」とは明確に区別されています。

かつては、「稲門弁理士クラブ」、「稲門特許会」、「特許庁稲門会」の3団体の主催で弁理士試験合格祝賀会が開催されたこともありましたが、近年は、「稲門弁理士クラブ」、「稲門特許会」の2団体の主催で開催されています。それでも「稲門(とうもん)」という呼び名の2団体の先生が入り交じって都の西北を歌うわけですから、稲門は2重登録OKという見方になっても不思議はなく、こちら辺が、第三者から見ると、混乱・混同というか、不思議な解釈を生む要因となっています。

(5) 組織

当クラブでは、幹事会が唯一の審議決定機関となっており、総会はありません。幹事会は、当クラブでの審議および機関決定が必要となった場合にのみ不定期に開催されます。

平成22年度の幹事会メンバーは、代表1名、副代表6名、代表補佐20名(うちチーフ2名)、相談役8名、会長1名の合計36名で構成されています。

(6) 稲門レクリエーション活動の紹介

各担当者に紹介文を記載してもらいました。

(6-1) 稲門弁理士クラブ 旅行会

稲門弁理士クラブでは、年一回のペースで旅行会を開催しています。毎年開催時期や行先はクラブ

内で相談のうえ決めています。ここ数年は、海外や離島などに行くことが多くなっています。

現地では、食事時には皆で集まりますが、それ以外の時間は各自が好きなプラン（観光、ゴルフ、ダイビング、買い物など）で行動するというパターンが多く、個人旅行と団体旅行の間のような雰囲気です。また、ベテランの方だけでなく、最近登録したばかりの方や同伴のご家族にも広くご参加頂いており、クラブ内での交流を深める非常に良い機会になっています。

これまで当クラブの旅行会に参加したことが無い方や、最近ゆっくりと旅行に行っていないなあという方、今回は是非ご参加下さい。お待ちしております。（添乗員：貝塚 亮平）

（6-2）ボウリング同好会

稲門弁理士クラブのボウリング同好会は、クラブ員相互の交流を目的として活動しています。和やかな雰囲気練習や大会（日本弁理士クラブ主催の「日弁ボウリング大会」等）への参加に取り組んでいますので、ボウリングの得手不得手や世代間のギャップなど気になさらずに、一度参加してみてください。

（幹事：細田 浩一）

（6-3）テニス同好会

稲門弁理士クラブのテニス同好会は、テニスを通じて親睦を図ることを目的としております。活動の内容は、主に年に2度ある弁理士の会派対抗の大会（日本弁理士クラブ主催のテニス大会、弁理士協同組合主催のテニス大会）に参加することです。また、不定期に練習会を開催しております。テニス初心者の参加も大歓迎ですので、ご興味のある方は是非ご参加ください。（幹事：岩田 啓）

（6-4）釣り同好会

本同好会は、とりあえず食べれそうな魚が釣ればいいなを目的としたものです。毎年GW中に伊豆半島でのほほと釣り糸を垂らしています。本当にのほほとしていますので少し眠くなる場合があります。特に大物を狙うといったような活動はしていないので、小さな幸せでもオッキーの方、歓迎です。道具レンタルあります。（釣り人：関 京悟）

（6-5）スキー同好会

毎年、一泊二日でスキーしています。毎年大盛況でして、いつもいつもありがとうございます。なるたけフレッシュな気分で滑れるように、スキー場はシーズン毎にチョイスしなおしています。スキースノーボーはしたいけど、なかなかいつ行くとか誰と行くとか決められない方、思い切って参加してみたいかがですか？なお、参加メンバーは、上から下までとりあえず転ばずに滑ってこれるくらいのレベル以上ですので、そのくらいのレベル以上の方、歓迎です。普段、ワードの白い背景ばかり見つめてる先生方、たまにはスキー場の白いゲレンデと一緒にリフレッシュしましょうよ。（担当：関 京悟）

（6-6）稲門ダイビングクラブ

珊瑚礁に囲まれた沖縄県の島々や、伊豆半島等を中心に活動しています。他会派とジョイントした活動が中心であり、2010年には、静岡県大瀬崎、沖縄県・水納島、2009年には、静岡県川奈、和歌山県南紀白浜、伊豆大島、静岡県富戸、グアム、2008年には、八丈島、沖縄県慶良間諸島・阿嘉島、静岡県伊豆海洋公園&雲見、静岡県川奈、静岡県熱海、サイパン、2007年には、沖縄県石垣島&西表島、静岡県真鶴、静岡県川奈、神奈川県城ヶ島、沖縄県宮古島、静岡県初島×2、2006年には、沖縄県石垣島、静岡県大瀬崎、静岡県初島、沖縄県宮古島で潜りました。

（マスター：中野 寛也）

（6-7）ゴルフ同好会

活動はラウンドが中心で、練習は各個人で行っています。ゴルフが好きな方、ゴルフに興味のある方、ラウンドデビューしたい方・・・、腕は問いません、会員を常時募集しております。

少人数ながら定期的に練習ラウンドを重ね、年1回行われる会派対抗のゴルフコンペ（パテントマスターズ）での最下位からの浮上を期するべく、燃えています。30~40代中心の初中級者ばかりで、他会派や共同組合が主催するゴルフコンペに参加しながら、競技ラウンド経験も積んでおります。少しでも上手くなりたいと向上心を持ちながら楽しくラウンドするのがモットーです。

（キャプテン：榎本 英俊）

南甲弁理士クラブ

幹事長 高橋大典

南甲弁理士クラブについて

南甲弁理士クラブは、今年で創立82周年を迎える伝統あるクラブです。

当クラブは、「遊びの南甲」と言われています。これは会員相互の仲が良く、しばしば先輩・後輩が入り乱れて夜遅くまで飲んで飲まれていることが一因かと思えます。深夜まで繰り広げられる飲み会では、先輩と後輩との間で熱く議論されることもしばしばです。

当クラブの最大の利点はまさにここにあり、先輩と後輩との垣根が低く、自分の意見をみんなに聞いてもらう機会が多く、またみんなの意見を聞くことができる機会が多い会派が「南甲弁理士クラブ」であると自負しております。

又、当クラブは、「学びの南甲」と言われています。（と思えます。）これは、研修活動に力をいれ、年10回程度の研修会、海外研修会を開催していることが評価されているからでしょう。

このように、「遊び」と「学び」を両立させながら、会員相互の親睦を図り、有益な情報を提供できるように活動しています。

南甲弁理士クラブの組織

南甲弁理士クラブは、総会を最高の意志決定機関とし、クラブの運営にあたる幹事会、意見聴取機関としての顧問会、独立してクラブの会計監査を行う会計監査委員会により構成されています。

本年度の幹事会は、幹事長、須藤浩筆頭副幹事長、6名の副幹事長、11名の幹事の計19名で構成されています。

幹事会には、東海支部と、研修、親睦、普及、情報、広報、人事、政策、協議、海外研修の9部会が

あります。

東海支部と主な部会の活動は以下の通りです。

東海支部

長屋直樹東海支部長、堀研一東海支部代表幹事をはじめとする東海支部幹事会により、東海地域に密着したきめ細やかな支部活動を行っております。

また、日本弁理士会東海支部にも支部長をはじめ役員を毎年多数送り出して中心的な役割を担っており、日本弁理士会の東海支部運営に積極的に貢献しております。

研修部会

藤沢昭太郎部会長をはじめとする研修部会は、会員に役立つ種々の研修会をアレンジしています。南甲弁理士クラブは「認定外部機関」の1つであり、当クラブの研修会に参加することにより「単位」の習得ができるようになっています。

また、テレビ会議システムを利用することにより東海支部にも同時中継をしています。

親睦部会

津田理部会長をはじめとする親睦部会は、会員間の親睦を深めるために旅行会、納涼会、忘年会を企画・運営しております。まさに南甲の花形部会といえます。

例年春に開催されている旅行会は、本年度は伊東で盛大に開催されました。楽しすぎて寝ている暇がありませんでした。7月に開催された納涼会は、会員のご家族を交えて、豪華に東京湾をクルーズしました。

普及部会

川村武部会長をはじめとする普及部会は、弁理士試験受験者及び合格者を対象とした普及活動を行っております。

本年度も10月に口述練習会を開催し、11月には合格者祝賀会を開催する予定です。

情報部会

河野生吾部会長をはじめとする情報部会は、当クラブのホームページの維持・メンテナンス及び会員へのメールによる情報提供を担当しております。

ホームページは、当クラブの情報をタイムリーにクラブ内外へ発信する重要な役割を担っております。また、会員へのタイムリーな情報提供を実現するために、FAX網から電子メールへの移行を順次進めております。

広報部会

金田周二部会長をはじめとする広報部会は、年1回の会報「南甲」と、年1～2回の新聞「南甲新聞」の発行を担当しております。

南甲新聞は、当クラブの実態を鋭く反映したとしても楽しい内容であり、楽しすぎて家に持ち帰ることができない場合もあります・・・。

海外研修部

水野裕啓部会長をはじめとする海外研修部は、毎

年アジア各国を中心に現地に赴き、現地特許庁や裁判所、さらには現地の事務所を訪問しながら研修活動を行っております。

しかしながら、本年度は、不景気の折、活動を自粛している状態です。

レクリエーション部の活動

有志が集まったレクリエーション部として、ゴルフ部、テニス部、ボウリング部、野球部、囲碁部、スキー部、そして他会派にはない釣り部などが存在します。

ゴルフ部は、年に4回程度コンペを開催しており、最近は参加者も徐々に増加傾向にあります。

釣り部にあっても、年に3～4回釣大会を開催しております。ビギナーから本格派まで在籍しています。

スキー部は、例年3月に家族同伴でスキー&温泉旅行を楽しんでおります。

テニス部とボウリング部は、日弁の大会で好成績を残すべく頑張っております。

おわりに

南甲弁理士クラブは、南甲の独自性を維持しながら、日本弁理士会や日本弁理士クラブの活動に協力し、また他会派と協調しながら、国内外の知的財産権制度の発展や、弁理士制度の発展に尽力してまいります。

以上

P A 会



幹事長 伊 東 忠 重

PA会について

PA会は、大正11年（1922年）に創設され、90近い歴史を有する会派であります。PA会という名は、Patent Attorneyの頭文字からきています。

設立当初は、国立大学出身者の弁理士が会員を構成していましたが、昭和38年頃からは出身大学にこだわることなく入会していただき、現在では、中部部会会員を入れて800名を越える会員を擁しております。

PA会は、選挙母体としての性格だけでなく、会員相互の親睦、研鑽を図る同好の志の集まりとしての性格、日本弁理士会の委員会に数多くの会員を推薦し、委員会活動等を通じて日本弁理士会の運営に協力する団体としての性格を有しており、これに沿って種々の内部組織を有するとともに、各種活動を行っています。

PA会には、特許、意匠、商標、外国出願等、幅広い分野に精通した会員が多くいますが、特に、外国出願関係に精通した会員が多く、外国関連業務に興味のある人にとってとても魅力がある会と言われています。

PA会の組織

PA会には、第1条から第10条までからなる会則があり、その会則に、役員、総会、幹事会等が定められています。これらの規定に基づきPA会が運営されています。

1) 幹事会

幹事会は、幹事長、幹事長代行、副幹事長、幹事相談役、常任幹事、作業部会幹事等から構成されており、PA会の運営にあたっています。

平成22年度の幹事会は、幹事長1名、幹事長代行

1名、副幹事長2名、幹事相談役5名、常任幹事30名、作業部会幹事12名から構成されています。

幹事会は、ほぼ毎月1回、定例会を開催し、各種事項につき活発な議論・審議を行っています。また、緊急の事項につきましては、幹事会メーリングリストを用いて審議しております。

2) 総会

総会は、年に1回開催され、必要であれば臨時総会が行われます。総会では、年度予算・決算の承認、役員の選任等についての決定が行われます。

3) 作業部会

PA会の実際の運営に大きく寄与するのが作業部会です。各作業部会は数多くの会員の声をPA会の運営に直接反映させることができるように、年齢、性別を問わず広い範囲から集められた多くの部会員から構成されています。

PA会には以下に記す12の作業部会があり、それぞれ数名から数十名の部会員を有して構成されています。

① 組織部会

野上晃幹事を中心に、PA会会員の増加を図るべく、口述練習会等、PA会の組織全体の視点にたった企画を立案し実行しております。

② 会計部会

市東篤幹事を中心に、寄付金等の入金および各部会や同好会その他の出金の管理をしております。

③ 会報部会

穂坂道子幹事を中心に、会報「PA」の編集および発行を、村田正樹部会長を中心にホームページの運営・管理を行っています。

④ 研修部会

渡邊伸一幹事を中心に、新人研修、一般研修、国

際研修等、法律改正や弁理士業務に関わりを持つ事項についての会員研修を立案し、実行しています。近年、P A会では会員研修に特に力を入れており、年10回以上行っています。

⑤ 企画1

谷崎政剛幹事を中心に、夏のイベントとしての納涼会、弁理士試験の合格者祝賀会を、立案し、実行しています。

⑥ 企画2

金井建幹事を中心に、毎年恒例の旅行会、新年会、総会等を企画し、実行しています。

⑦ 政策部会

井出正威幹事を中心に、日本弁理士会や日本弁理士クラブからの政策的な諮問事項を検討し、意見の提出や要望を行っています。

⑧ 人事部会

藤谷史朗幹事を中心に、P A会会員の希望等を勘案して、日本弁理士会や日本弁理士クラブ等へ、委員等の推薦を行っています。

⑨ 庶務1部会

遠山敬一幹事を中心に、主として毎月開催される幹事会の設営と、議事録の作成等を行っています。

⑩ 庶務2部会

林篤史幹事を中心に、P A会会員のデータ管理、会員名簿の発行、P A会メーリングリストの管理等を行っています。

⑪ 庶務3部会

鈴木大介幹事を中心に、P A会会員や日本弁理士会会員の慶弔の作業を行っています。

⑫ 中部部会

鈴木学幹事を中心に、東海地方のP A会会員の組織、親睦を企画、実行しています。

P A会の同好会

P A会には、計8つの同好会があり、それぞれ希望に応じて多くの会員が各同好会に属しています。P A会会員は仕事に熱心だけでなく、遊びも両立して大いに楽しんでいます。

1) ゴルフ同好会

ゴルフ同好会では、年4会にわたり、東京近郊の名門と言われるゴルフコースでコンペを開催しています。パテントマスターズでの優勝返り咲きを目指しています。

2) 麻雀同好会

2ヶ月に1回、初心者であっても気軽に参加できる雰囲気麻雀を楽しんでいます。

3) テニス同好会

不定期ですが、年に複数回、東京近郊のテニス場所での大会に参加しております。

4) スキー同好会

不定期ですが、冬に信州や北海道でのスキー旅行会を開催しています。初級者から経験豊富なスキーヤーやスノーボーダーまで自由に参加することができます。

5) ボウリング同好会

年5～6回、ボウリング大会を開催しています。日弁ボウリング大会にも参加し、更に、他会派との合同大会も開催しています。

6) アウトドア同好会

四季折々に、ハイキング等の野外行事を実施しています。P A会会員の家族も参加しています。

7) スクーバダイビング同好会

年1～2回、沖縄や伊豆等へのダイビングツアーを計画、実行しています。ダイビングの合間に、釣り、シュノーケル、シーカヤックを楽しむこともあります。

8) ソフトボール同好会

年2～3回、東京近郊で試合や練習を行うことを目標としていますが、最近ではメンバーの高齢化のためか、活動が不十分です。若手会員の入会を期待しています。

おわりに

P A会は、今後とも、他会派と協調して、日本弁理士会や日本弁理士クラブの活動に協力してまいる所存です。今後とも宜しくお願い致します。

無 名 会



幹事長 須 藤 雄 一

【無名会について】

無名会は、平成23年度（平成24年1月）に90周年を迎えます。

この会派には、出身校等を問わず、さまざまな人種（？）が混在しており、考え方もいろいろであり、ユニークな会派となっています。この会派のユニークさは、「無名会」の名称にも表れております。「無名」の名は、老子の著書の一節から「名無きは天地の始めにして、名有るは万物の母なり」をとったものであると言われ、90年の積み重ねで築きあげた統制、規律の下に、日本弁理士会の発展等に大きく寄与しております。

無名会の良さは、遊びにも表れています。さまざまな同好会で共に楽しみ、結束を深め、ここぞという場面では、一丸となって事に臨む集団です。

これから100周年に向かって、さらなるユニークさを醸成し、知的財産制度の大いなる発展に寄与するべく活動を進展させてまいります。

【無名会の組織】

無名会は、281名の会員から構成され、今年度は以下のような組織形態となっております。

幹 事 長	須藤雄一
幹事長代行	米山尚志 羽鳥 亘
副幹事長	菊池 栄、他13名
常任幹事	鈴木正次、他28名
幹 事	高野登志雄、他53名
会計幹事	前田伸哉
企画委員長	亀崎伸宏
会誌委員長	片岡憲一郎
福利厚生委員長	鶴目朋之
人事委員長	村上晃一

政策委員長	斎藤 康
研修委員長	竹山尚治
情報委員長	山田 勉

【無名会の委員会】

無名会には、企画委員会、会誌委員会、福利厚生委員会、人事委員会、政策委員会、研修委員会、情報委員会があります。

その他、さまざまな問題等に対処する臨時の委員会も立ちあげられます。

1. 企画委員会

企画委員会は、弁理士会の役員当選祝賀会、弁理士試験合格祝賀会、新年会などを企画・実行します。

今年度も各種行事が実行され、弁理士合格祝賀会は、六本木ヒルズのヒルズクラブで行います。

企画委員会は、毎年9月に若手懇親会を企画しております。この懇親会は、若手と諸先輩との懇親を図る意味で、企画委員会の主催により開かれます。

2. 会誌委員会

会誌委員会は、無名会会誌発刊の作業を担当致します。

今年度は、無名会誌第60号の発刊作業を進めてきました。特に、90周年特集号にするため、90周年に因んだ内容としております。

3. 福利厚生委員会

福利厚生委員会は、会員相互の親睦を深める極めて重要な活動を担っています。

今年度は、鬼怒川温泉への旅行会が企画されました。

この委員会の下には、ゴルフ同好会を筆頭に、ジャズの夕べを楽しむ会、テニス同好会、ボーリング同好会、囲碁同好会、ワイン同好会があります。